

県森林研が全国初の乾燥技術

1 本から複数の角材



曲がりを矯正する前と後の角材を見比べる
古田肇知事(左) = 県庁

同研究所によると、丸太の中心以外は曲がりや反りが大きくなるため、1本の丸太から複数の角材を取る場合、あらかじめ「削りしろ」をとり、真つすぐに削り直す必要がある。効率が悪いので、太くても複数の木材を取ることは少なく、太さが価格に反映されにく

い現状がある。新しい技術では、乾燥させる時に曲がる方向を想定して角材を交互に積み上げ、適切な乾燥方法を施すことで、曲がり幅を従来の4分の1程度に低減できた。

すでに1本の丸太から2本、3本の角材を取る製材

スギの曲がり矯正

県森林研究所は、長良川木材事業協同組合(郡上市)などと共同で、スギを製材した時に発生する「曲がり」を矯正する全国初の人工乾燥技術を開発した。戦後に植栽したスギが成長し、市場に流通する丸太が太くなる中、1本の丸太からより効率的に複数の角材を取ることで、林業現場の収益増加が期待できる。(宮本寛)

方法で実用化。古田肇知事は「県産材を売り込むポイントになる」と期待している。

岐阜県森林研究所ホームページ掲載期間：平成 31 年 9 月 10 日

この記事は岐阜新聞社の許可を得て使用しています。